

【日本天文学会理事会 議事録】

日時：2001年3月28日(水) 12時00分～14時20分

場所：千葉大学 総合校舎A号館2階小会議室

出席者：田原，唐牛，松田，郷田，大石，松原，立松，大橋，上野，茂山，加藤，松元，黒田，山内 以上14名
欠席者：吉田 以上1名

他に、山岡天体発見賞選考委員会委員長，百瀬宗武氏（吉田理事代理），東條事務長が参加した。

議事に先立ち、署名人を選出した。

議長：田原博人

署名人：大石雅寿，郷田直輝

議事の経過及び結果

前回(2001年1月27日)の理事会議事録が郷田庶務理事より報告され、一部修正の上、承認された。

1. 2001年春季年会についての報告

茂山年会理事より、2001年春季年会について以下のような報告があった。3月25日に開催された記者会見では先ず、田原理事長が林忠四郎賞受賞者の説明を行い、その後3件の発表が行われた。また、参加報道機関は5社であった。現在までのところ、1社が1件について報道した事を確認している。口頭講演は、254件、ポスター講演は192件、講演キャンセルは5件あった。さらに年会に関して本理事会開催時点までの全体の参加者数は745名、その内ジュニアセッションの参加数は約250名であった。また、ジュニアセッションに関しては、次回秋季年会では午後に全体セッションで行う。次々回以降では全体セッションとして継続するか、パラレルセッションとするか今後検討をする。

また、加藤教育理事（年会実行委員保育室担当）より、保育室の利用は2家族3名であることが報告された。

さらに、加藤教育理事より、3月25日に行われた公開講演会に関して次のような報告があった。「21世紀の天文学」と題し、講師は長谷川哲夫氏，藤本眞克氏，参加者は約80名であった。

最後に立松会計理事（ALMA特別セッション世話人）より、3月26日に開かれたALMA特別セッションに関して、参加者は180名程度であった等の報告があった。

2. UAPの件について

PASJに関してUAPとの間に生じている問題について、大石庶務理事より、前回の理事会からの動向及び学会側からの対応に対してUAP側からは明確な返答がない旨の報告があった。学会側弁護士の見見も参考にして、今後しばらく様子を見ることとする旨が了承された。

3. 次回以降の年会開催についての報告

- 2001年秋季年会について
黒田年会開催地理事から姫路市内での会場等についての報告があった。
年会日程は、10月4，5，6日，公開講演会は10月7日とする。
- 2002年春季年会について

百瀬氏（吉田年会開催地理事代理）から報告があった。会場は、茨城大学水戸キャンパスの予定。日程は、2002年3月28，29，30日，公開講演会が3月31日の予定である事が報告され、理事会としても承認した。

(3) 2002年秋季年会について

山内年会開催地理事から報告があった。会場は、宮崎シーガイアコンベンションセンターの予定。ただし、シーガイアの情勢変化によっては他の会場への変更もありうるので、他の候補地も検討をしている旨の説明があった。

- 2003年春・秋季年会について
春季年会について、郷田庶務理事より東北大学と交渉中であるとの報告があった。
また、2003年秋季年会については、栗木氏より愛媛大学開催の内諾を得ている旨の報告があった。

4. 新入会員の承認

郷田庶務理事より、新入会員申込者リストの説明が資料を基にあった。議論の後、正会員として9名，準会員として6名，賛助会員として2名の入会を承認した。なお、会費未納のため、過去に除名となった者の再入会員申し込みに関しては、未納金を納めるまでは、入会を認めない旨の規則を確認し、今回の申込者のうち、該当者（正会員に関して1名，準会員に関して1名）には、その旨を伝え、その後の処置は田原理事長に一任することとなった。

5. 入会手続きについて

東條事務長より、数年前から学会事務室で行っている入会手続きの手順に関して資料を基に説明があった。今後もこの手順（入会申請があれば、入会の仮受けをし、会員番号の付与、出版物の送付等を行う。しかし、各種選挙権、被選挙権及び総会の表決権などのいくつかの権利は理事会で正式に承認された後に与える）を踏襲するかどうか議論を行った。結論として基本的にはこの手順を踏襲することとなった。ただし、入会申請に関して問題点があった場合は、実務理事（理事長，副理事長，庶務理事，会計理事）で処置を相談して決める等、実務理事レベルで対応することになった。

6. 未収会費の徴収策について

継続審議となっていた、未収会費の徴収策としての会費の督促料導入等について、立松会計理事より改正案が出され、資料を基に説明がなされた。特に前回の案と比較しての変更点が詳細に説明された。議論の後、本案を理事会としては承認し、次回の評議員会に諮ることとなった。ただし、もし案の細部で変更の必要がある場合は、次回の理事会で見直し、修正案を評議員会に諮ることもありうることを確認した。さらに、本案とは別の対策として、会費の自動引き落としの方法をデフォルトとして全会員に課すことを今後も検討を続け、なるべく早期に実行できるように努めることとなった。

7. 新賞制定に関して

(1) 天文功労賞（案）に関して

継続審議となっていた、アマチュアの天文活動で、長年に渡る観測・天文啓発に対して贈る新賞として、天文功労賞という名称の賞を制定したい旨の提案が山岡天体発見賞選考委員会委員長よりあり、さらに具体的な賞の内容に関して資料に基づき説明があった。質疑応答の後、次回の理事会で引き続き審議し、結論を得られるよう努力することとなった。

(2) 女性研究者を対象とした賞の検討について

1月27日の評議員会で、理事会での検討事項となった、女性研究者を対象とした新賞の制定に関して意見交換を行った。加藤教育理事から、現在博士課程1年以上の天文学の女性研究者は約70名であり、対象者が少なすぎる等の問題点が指摘された。その後意見交換を行った結果、女性研究者のみを対象とした賞の制定に関しては今回は検討を見送ることとなった。

(3) 研究奨励賞の検討について

(2)と同様に、1月27日の評議員会で、理事会での検討事項となった、大学院生およびポスドクのみを対象とした研究奨励的な賞に関して意見交換を行った。あまり賞の数を増やすのは良くない、既存の賞の枠を広げる方針の方が良い等の意見が出された。なお、加藤教育理事より、蜂巢研究奨励賞選考委員会委員長にも検討をお願いしている旨の報告があり、理事会としても研究奨励賞選考委員会で検討してもらうことを承認した。

8. その他

(1) 日本天文学会定款について

定款の中で、文部省と記してある箇所は、文部科学省に変更された旨の報告が、郷田庶務理事から行われた。なお、この変更は定款上の変更手続きを経ずに特例として可能なものであった。さらに、郷田庶務理事より、前回の評議員会で承認された内規の変更箇所について説明が行われた。

(2) 年会予稿集の広告について

田原理事長より、賛助会員が年会中に会場での展示をする場合、そのお知らせ広告を無料で年会予稿集に記載してもらってはどうかという提案があり、議論の後、本提案を承認した。その他広告掲載料等の実務レベルの話は、実務理事で検討することとなった。

- 次回理事会の予定について
次回理事会の予定を以下のように決定した。
2001年7月7日（土）

2001年4月23日

議長 田原博人 印
署名人 大石雅寿 印
署名人 郷田直輝 印

[天文学会ホームページに戻る](#)